



Asia Pacific Corporate Games™



ザ・コーポレートゲームズ 東京

*Concept Book*



ザ・コーポレートゲームズ 東京 実行委員会

# コーポレートゲームズとは

世界各国で毎年開催。  
これまでに世界30カ国で100万人以上が参加。

## コーポレートゲームズとは

コーポレートゲームズとは、1980年代末にイギリスのスーツフォーライフ社により設立された国際スポーツフェスティバルです。

あらゆる団体が自由に参加できる、生活者のための市民参加型のイベントとして、世界30カ国60都市で開催されてきました。これまでの大会参加者を累計すると、世界各国100万人以上の方が参加しているイベントです。

2014年9月に東京湾岸エリアで日本初のコーポレートゲームズを

「ザ・コーポレートゲームズ 東京2014」として開催。

第1回大会としては世界最多の6,000名を越える競技参加者が集まり、  
加えてスタッフ・応援者など4日間で計約13,500人が東京湾岸エリアに集結しました。

2015年には、「ザ・コーポレートゲームズ 東京 2015 アジア パシフィック」として、  
アジアパシフィックエリアで唯一開催される大会へと規模を拡大し、大会を通じて延べ10,000人が参加しました。

地域活性の取り組みとして国内の地方自治体からの関心も多く集め、  
地方自治体からの見学者も多く訪れています。

## コーポレートゲームズの特徴

- 世界中の様々な参加者が集い、  
参加・交流する、スポーツ大会の枠を超えた  
独自のスポーツ交流型フェスティバル。
- 競技スポーツのほかに、参加者や観戦者の交流  
を促す様々なイベントや行事が催されます。
- ビジネス交流の場や社内のチームビルディング  
としても機能するため、企業の福利厚生の一環として、  
大人数で参加する企業も見受けられます。





# 2016年開催予定のコーポレートゲームズ

## 世界各国で開催される コーポレートゲームズ



2016年1月22-24日	トランシルヴァニア大会(ルーマニア)
2016年3月11-13日	沖縄大会(日本)
2016年3月18-22日	ニューサウスウェールズ大会(オーストラリア)
2016年5月20-22日	ワールドコーポレートカップオブサッカーリバプール大会(イギリス)
2016年5月20-22日	クイーンズランド大会(オーストラリア)
2016年5月23-26日	リバプール大会(イギリス)
2016年7月1-3日	アヌシー大会(フランス)
2016年8月18-21日	オースティン大会(アメリカ)
2016年9月1-4日	ケープタウン大会(オーストラリア)
2016年11月5-6日	ザ・コーポレートゲームズ東京2016アジアパシフィック(日本)

※ナイジェリアでも2016年開催予定



# ひとりひとりが、ヒーローなんだ。 *I am a HERO.*

「コーポレートゲームズ」はTシャツなどのお揃いのユニフォームを着るというレギュレーションを守れば“誰でも”“どんなカタチ”でも参加出来るのが特徴です。

個人や団体、企業チームや学生チーム、近隣の住民チームや親子チームでも参加が可能です。

こうした参加者が1つのステージに集まり、交流する。

さらに、この大会には、パートナー・サポーター・ボランティアといった大会を支える多くの方たちが集い、交流します。

それぞれが、それぞれの関わり方によって、誰もが主役になれる。

「ザ・コーポレートゲームズ 東京」は、関わる全ての人々がヒーローになれる場所を目指しています。

## 仲間、会社で、チームで。

### 様々な参加のカタチがあるからこそ、様々な交流が生まれます。



昔の部活仲間と  
With your former school  
team mates



取引先のお客さんと  
With your customers



会社の同僚と  
With your colleagues



近所の仲間や子供達と  
With your neighborhood  
friends and children



家族・親族と  
With your family and  
relatives



## スポーツの頂点を、より偉大な頂点へ

ザ・コーポレートゲームズ東京 は2020年を見据えたスポーツ市場全体への貢献として、「見るスポーツを支えるのは、参加するスポーツである」という考え方のもと、参加するスポーツ大会を通じて、スポーツ界全体のすそ野を広げる役割を担う大会です。

**TOPアスリート**

参加型スポーツ大会の開催により、  
スポーツのすそ野を広げる

ザ・コーポレートゲームズ 東京  
参加者

ザ・コーポレートゲームズ東京 は  
スポーツ参加の機会を創出することで、  
スポーツのすそ野をより大きく広げ、

**TOPアスリートを、より偉大で大きなHEROへ押し上げていく。**  
その役割を担っていきます。

# スポーツを通じた幅広い交流①

## 参加者属性

ザ・コーポレートゲームズ東京 は 2014年から

- ・ **ザ・コーポレートゲームズ東京2014(2014/9/27~28)**
- ・ **ザ・コーポレートゲームズ東京2015アジアパシフィック(2015/11/14~15)**

の2大会を開催し、

幅広い年齢、数多くの団体・企業、多くの国から参加者が集いました。

大会延べ参加人数：約16,000人

参加者年齢：最年少 8歳

2014年大会：リレーマラソン、

2015年大会：リレーマラソン、ドラゴンボート

最年長：80歳

2015年大会：ボウリング

### ●参加者平均年齢

男性	35.9歳
女性	31.5歳
全体	34.84歳

### ●男女比

男性	78.7%
女性	21.3%

※2015年大会実績



# スポーツを通じた幅広い交流②

## 広域からの参加

### ①国内広域からの参加

これまでに20都道府県(北海道、富山県、長野県、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、山梨県、静岡県、愛知県、三重県、大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県)から参加者が集いました。

### ②海外からの参加

海外からも参加者招致を積極的に行い、これまでに12の国と地域(アメリカ、イギリス、インドネシア、カナダ、シンガポール、スペイン、タイ、台湾、ドイツ、ブラジル、フランス、マレーシア)から参加しています。



## 団体・企業・個人単位での参加

コーポレートゲームズは団体・企業単位で参加することが多いのが特徴の1つです。これまでに多くの企業、団体が参加しています。また、個人での参加もあります。

### ●延べ参加企業・団体数（※個人参加含む）

企業	338
団体・個人	130
計	468



## 団体・企業単位での参加

### 2014年大会 参加企業・団体





## 団体・企業単位での参加

### 2015年大会 参加企業・団体



## 企業・団体内交流の活用

各参加企業ごとに様々な形態で参加

- ・グループをまたいでのチームビルディングによる社内交流
- ・新入社員・内定者でのチームビルディングによる社内モチベーション活性
- ・地方・海外支店からの参加による、グループ全体での交流



## 企業・団体間交流の活用

企業・団体単位での参加という大会の特徴を活用し、参加企業間・スポンサー企業間での交流が生まれています。





## キャプテンブリーフィングセッション



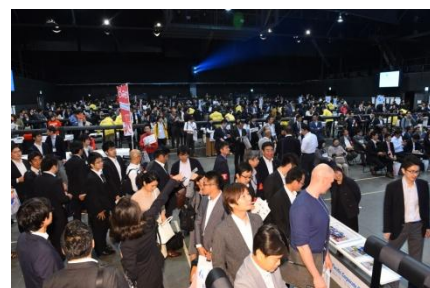
参加団体・企業の代表者と参加チームのキャプテンを対象とした「キャプテンブリーフィングセッション」を開催しています。

2016年大会は合計531チームから、キャプテンを中心とした1,000名を超える方が来場されました。

大会全体のご説明や注意事項、各競技ルールや対戦表の発表などを行います。

当日は説明だけでなく、ステージ上での記念写真撮影や、メッセージフラッグへの大会への意気込みの記入など、皆様に交流いただけるコンテンツも実施しています。

この日から、新たな団体・企業間交流がはじまります。



## 既存施設の有効活用

中央区、江東区を中心とした東京・湾岸エリアの既存スポーツ関連施設を活用することで、大会参加者・応援者・関係者が東京湾岸エリアに訪れる機会を創出し、エリアの魅力に触れていただく機会となることを目指し、実践しております。

また、これから建設される各スポーツ施設を、2020年以降も有効活用できるよう、継続的な取り組みとしていくことを目指しています。

## 競技参加枠設定

中央区、江東区にお住まい、お勤めの方々へ特別参加枠を設定。

地元の方も一緒に楽しみ、交流できるイベントとなっています。

また、競技以外にも様々な形で地域の皆様にご参加いただける大会を創造しています。



日本橋中学校吹奏楽部  
(リレーマラソンスタートアトラクション)



江東区 山崎孝明区長  
(ゲームズセレブレーションパーティー)



中央区 吉田不曇副区長  
(クロージングアワードセレブレーション)



## スポーツ大会を活用した実証実験

2015年大会では、NEC様、ALSOK様の2社と共同で、実証実験を実施。最新の技術を2020年に向けて実用化していく上で、実際のスポーツ大会に実験的に導入し、もたらされるメリットや次の課題を分析し、完全なる実用化に向けた今後の研究に役立てることを目的としました。

### ①世界No.1の顔認証エンジン「NeoFace」入場管理サービスの実施

日時・場所：11月14日(土)・15日(日) 江東区夢の島競技場

スムーズな入場の実現、なりすましでの入場防止のために、リレーマラソン参加者を顔認証にて入場管理を実施。世界No.1の精度を誇るNEC様の顔認証エンジン「NeoFace」を、スポーツ大会ではじめて実証導入しました。

### ②人工知能ソフト「RAPID機械学習」を車いす参加者検知に初めて適用、障がい者の方々と健常者の方々と分け隔てない大会運営を実施

日時・場所：11月14日(土) 江東区夢の島競技場

人工知能ソフト「RAPID機械学習」を車いす参加者の検知に初めて適用し、車いすや事前に登録された車両のナンバープレートを自動検知することで、障がい者の方々へのタイムリーでさりげない支援の実現を目的。また、Center Pole株式会社様のご協力により、障がい者スポーツで活躍されているアスリートの方々にもリレーマラソン競技に参加。障がい者の方々と健常者の方々とでタイム調整などは一切行わず、同一クラスで共に競い、交流を深めました。

### ③「群衆行動解析技術をもとにした実際の警備運用」をスポーツ大会で初めて実験的導入

日時・場所：11月14日(土) ゲームズセレブレーションパーティー会場

ゲームズセレブレーションパーティー会場にカメラを設置し、群衆映像から個人を特定することなくリアルタイムに混雑状況を把握、その情報をもとに瞬時に警備員が対処に動きます。このような「群衆行動解析技術」と「警備のリアルタイムな連携」をスポーツ大会として初めて導入しました。

### ④ウェアラブル端末を駆使し運営本部と遠隔地の会場間でのスムーズな情報共有を実施

日時・場所：11月14日(土)・15日(日) 江東区夢の島競技場

警備員やボランティアスタッフがウェアラブルカメラとIPトランシーバを装着し、会場で発生した不測の事態や来場者からの問い合わせなどの情報を運営本部と共有する実証を行いました。

## 参加企業・団体の活用方法のご紹介

---



## コーポレートゲームズをきっかけに、社内のスポーツ熱を高めたい！ 都築電気株式会社様

2015年大会、100名以上で参加を表明の「都築電気株式会社」様をご訪問。会社を代表して野球部チームに大会への想いを語っていただきました。

－大会に期待することや意気込みを教えてください

<片貝さん>

社内の横のつながりが活発になると良いと思っています。野球部でも大会への出場を決めてから、加わるメンバーが増えているので、こういった大きな大会に出るという目標を掲げ、社内をもっと巻き込んでいきたいです。あとは、仕事で関わりのあるお客様との対戦など、他企業の方とたくさんコミュニケーションしてみたいです。

<岡島さん>

勝ち負けよりも、社内のメンバーが一生懸命やって、お祭りとして、とにかく楽しみたいです。そうして社内のつながりが深まってほしいと思います。昨年大会優勝チームがとても強かったと伺っていますし、日頃のお仕事でもお付き合いがある会社様です。ぜひそういったチームとも戦ってみたいです。対戦を通して、他の会社の方とコミュニケーションをとりたいですね。

－なぜ、大会参加を会社で推進されているのでしょうか

<北浦さん>

2014年の大会を取り上げていたテレビのドキュメンタリー番組を見て、当社内も更に活性化させたいと思いました。当社は十数年前まで部活動が盛んでしたが、最近では数も減っており、活動も停滞気味でした。コーポレートゲームズのような大会を通して、社内のスポーツをもっと活性化し、部活動を復活させたいと思いました。

－実際、参加を決めて、社内はなにか変わりましたか

<北浦さん>

社内で公募をかけたら、問い合わせが殺到したのですが、現在、野球・ゴルフ・リレーマラソン・バレーボール・バスケットボール(3×3)、フットサル、テニス、ボウリングで参加を予定しています。参加する社員たちの話を聞いていると、優勝するために頻繁に練習に取り組み、メンバーを選抜する予選会を自らやっているチームもあるみたいです。また、そういった練習とその後の懇親会など、社員交流も盛んになったと聞いています。私たちとしても、オリジナルユニフォーム制作や団旗づくりをサポートして会社全体で盛り上げていこうと思っています。



都築電気株式会社様 会社プロフィール

1932年に名古屋で創立。創立時は電話機中心の販売。戦後、東京に移転し東京丸の内電話交換機の復旧事業を行う。現在は、ICT事業と電子デバイス事業を手がけている。

都築グループ：国内11社、海外3社、社員数2,323名、114拠点

ウェブサイト：<http://www.tsuzuki.co.jp/>

## たくさんの取引先企業の皆様に参加して欲しい。 だから率先して笑顔で参加します！ 株式会社シーク様

2014年大会、2015年の大会スポンサーでもある株式会社シーク様。2014年大会はリレーマラソンに参加し、社内での交流が大いに深まったそうです。2015年もリレーマラソンに参加表明している皆様に大会の魅力と参加する決意を語っていただきました。

ー2014年大会に参加された感想を教えてください。

<山本さん>

社内の様子を見ていると、身の回りの一緒に仕事をしているメンバー同士のコミュニケーションは多くみられましたが、チームや部署を越えた交流は少ないと感じていました。組織や会社を強くするには、横のつながりを強固にすることが非常に重要だと考えていたところコーポレートゲームズを知り、参加を決めました。2014年は日頃会話のなかったメンバーが集まり、お互いに声を掛け合いながら練習を個々で行い、高めあいながら当日を迎え、大会を通して多くのコミュニケーションが生まれた非常に良い大会だったと思います。さらに、私が一番良かったと思うのは、大会当日に家族を連れて行ったことでした。自分がカッコよく走っている姿を見てもらったことも良かったのですが、家族と社員が交流する機会になったことが嬉しかったです。仕事をしている姿を家族に見せることはなかなか難しいですが、こうして社員と一緒に楽しくしている姿を家族に見せられ、父・夫としての威厳を少し保てたような気がします(笑)



<中川さん>

入社後約半年で大会に参加しました。日頃関わらない社内の人とチームを組んで参加することがとても新鮮でした。自然発生的にメンバーで連絡先を交換し合い、日々お互いの成果を報告し合い、お互いに「凄い！オレも負けられない！」とグループトークが盛り上がり、大会当日には昔から仲の良いメンバーに触れ合うことができました。とても楽しかったです！社内の人にもっとカッコイイ姿を見せたいです。

ー大会を通じて取り組みたいこと、伝えたいことは何でしょうか。

<山本さん>

株式会社シークはWEBを中心とした中小企業様の経営支援を行っている会社です。これからもっと多くの中小企業様を支援していきたいと考えていますが、健康面、精神面でも取引先企業の皆様に貢献できるようなご提案をしていきたいと考えています。コーポレートゲームズは非常に魅力的なイベントです。もっと多くのお取引先企業にお伝えし、一緒に参加したいです。そのために「ワクワクする明日を創る」というシークのお考えのもと、我々が率先してコーポレートゲームズに参加し、どの団体・企業様よりも笑顔で楽しく参加すること。それこそがコーポレートゲームズを通じて取り組んでいきたいことだと考えています。



株式会社シーク様 会社プロフィール

2006年5月設立。

顧客主導型サービスを提供する企業として、お客様の会社経営に必要なサービスと情報を提供。企業が現在直面している「勝ち残るため」の戦略を提供できる会社として、ホームページをはじめ、各種マーケティングをご提案します。

ウェブサイト：<http://seek.vc/company/>



## 2014年は思った以上の大成功！そして、2015年こそはアワードを 獲りたい！ 株式会社フルタイムシステム様

全社の半数近くが出場予定と、2015年11月の大会に向け、全社的に昨年以上の盛り上がりを見せているそうです。そんな株式会社フルタイムシステム様を代表して、代表取締役 副社長の原さんとプロジェクト推進部の唐沢さんに大会の魅力を語っていただきました。

ー2014年大会に参加された感想を教えてください。

<原さん>

コーポレートゲームズの話聞いて、絶対成功する！と思って、スポンサーに一番乗りしました。実際、参加して、思った以上の結果が出て、非常に満足しています。スポンサーになることを決めた後、一気に全社に号令をかけました。まずはキャプテンを決めて、彼らにチームメンバーを自由に選んでもらって、チームを組むようにさせました。キャプテン同士でチームメンバーの取り合いになって大変でしたが、会社ゴトとして盛り上がるきっかけになりました。結果として、北海道から九州まで全国の支店から幅広いメンバーが集まり、エリアを超えるコミュニケーションが広がりました。特に、全国の営業とコントロールセンター(※)の社員が互いに知り合いになったことで業務連絡がスムーズになったという話をよく聞きます。これまでの電話連絡も、顔が見えるのでは全然違いますからね。コーポレートゲームズのおかげで業務効率がUPしたとも言えるかもしれません。

※コントロールセンター：60人程度の社員が在籍する24時間対応でマンションインフラ(フルタイムロッカー等)のコントロールを行う部署

<唐沢さん>

フットサルチームのキャプテンとして参加してましたので、その感想を言いますと...フットサルはこれまで部活動がなかったので、新設のチームとして、メンバー募集からスタートしました。週1回程度練習したりしながら年代をこえるコミュニケーションが取れました。当日も私たちフットサルチームも、他の競技のチームもそれぞれが競技を一生懸命頑張っていました。それ以上に競技の合間の時間をチェックしては他会場まで行って、応援し合うなど、会社全体で盛り上がりました。社長も全会場に駆けつけて応援していました。社員の新たな一面の発見と、社内の思いやりの譲り合いに期待します。

ー2015年の大会に期待することは何でしょうか。

<原さん>

170名ほどの会社ですが、2014年が約80人参加させました。2015年はその80人の2/3を入替えて、また7・80名での参加を予定しています。365日稼働している会社なので、一気に全員とはいかないが、3年かけて全社員を出場させたいと思っています。スポーツを通じて、社員の普段とは違う一面や特技などを見ることができるので、全社員に対してそういった発見があることを楽しみにしています。あと、2014年に参加した社員たちはみんな次も出たい！と思っているし、一方で出たくても出られなかった社員たちも大勢います。その中で、社員たちが自分たちで相手を思いやって調整をして、参加の枠を譲りあうというのも、会社のコミュニケーションとして良いことですし、どういう人選になるのか、楽しみです。



### 株式会社フルタイムシステム様 会社プロフィール

1986年5月設立。宅配ボックスのパイオニア。世界に先駆け、宅配ボックスの総合メーカーとして会社を設立。現在ではフルタイムロッカーを軸に供給販売台数シェアNo.1を独走している。最近では宅配ボックスに留まらず、マンション向けに特化した、サイクルシェアリングシステム、カーシェアリング、宅配レンタカー、EV充電器、食配ステーション、ICセキュリティキーシステムなどのシェアリング機能を有するインフラやサービスを提供している。また農業分野にも早い時期から参入し、生産農場並びに農業リゾートの運営を通して、マンション居住者様向けのコミュニケーションイベントにも力を入れている。

ウェブサイト： <http://www.fts.co.jp/>





## 参加競技ごとに全社投票してキャプテンを決めて、一丸となって大会目指して頑張ります！ 株式会社ヨネヤマ様

2014年に引き続き、ご参加いただく株式会社ヨネヤマ様。  
2014年は社長からの参加指令で急遽出場を決めたそうですが、盛り上がりを受けて、2015年は全社一丸となって参加メンバーを選定中。そんな株式会社ヨネヤマ様の、2014年にキャプテンとして出場したディレクターの高野さんと、サポート役の井口さんに出場に向けての意気込みを語っていただきました。

—2014年大会に参加された感想を教えてください。

<高野さん>

2014年は大会の直前に急遽、社長から出場の話が来ましてリレーマラソンのチームキャプテンとして出場しました。10名のチームで、埼玉支店と多摩支店、本社のメンバーを合わせて、若手主体で参加しました。急遽の参加ではありましたが、短時間で、大会に向けて、個人個人で練習をしたり、頑張りました。大会当日は、色々なハプニングもありましたが、みんなで応援しあって頑張りました。マラソン後の、飲み場では、競技の振り返りだったり、そういったエピソードの振り返りだったり、大いに盛り上がりましたし、一致団結して取組めたなという感想です。また、当日の応援に家族も呼べたことが非常に良かったです。純粋に競技に頑張る姿でかっこいいと思ってもらえますし、あとは、メンバー間のやりとりや、チームの一体感など、キャプテンとして、頑張ったことを家族が見てくれていて...そこから、普段は見えない社内での立ち回りを感じてもらえたようで、妻からは「大変だね～」と言われましたね。仕事に対する理解を少し持ってもらえたんじゃないかと思います。

—今年の大会に期待することは何でしょうか。

<井口さん>

2014年はリレーマラソンとボウリングでの参加でしたが、2015年は、リレーマラソン、ドッジボール、ドラゴンボートで参加を検討しています。2015年は会社全体で、多くの社員に参加して欲しいと思っています。新卒で入った12名ももちろんですが、特に年代が上の社員や役員の方々などシニアチームも結成したいです。参加を決めた理由としては、大会という1つの目標を設定して、チームで乗り切れることを社として、鍛えていきたいと思っています。日々一緒に仕事していて、同じ目標に向かって、業務に取り組んでいるはずなのに、食い違うことも多いです、うまくいかないことも多いと思います。そういったことを減らしていくためにも、こういう大会に参加するというのはいいことだと思っています。普段の仕事は「頭」を使ってチームで動くものですが、コーポレートゲームズのように「体」を使ってという、違う一体感をつくれるというのも良いですね。

—2015年の出場メンバーの選び方が選挙制ということをお聞きました。

<井口さん>

会社全体で盛り上がるために、出場メンバーの選定は選挙制を導入しました。120名の社員から、全員にキャプテンとして誰が良いか、競技ごとに投票してもらい、キャプテンを決めようと思っています。その後、キャプテンが自由にメンバーを選んでいくというカタチで出場メンバーを決めようと思っています。会社全体を巻き込んで盛り上がっていくこと、そういった雰囲気をつくること。コーポレートゲームズを通して、交流・発信していくことで、「ヨネヤマって良い会社だな」としてもらえるようになるのが嬉しいです。



株式会社ヨネヤマ様 会社プロフィール

1946年4月創業。食品パッケージング事業を中心に、企画・開発・デザイン・調達・在庫・配送・回収・リサイクルのリアルなビジネスを提供。食品容器やパッケージを通して「豊かで、おいしい生活」をつくっていくことを目指している。

ウェブサイト： <http://www.foodware.jp/>

## 「昨年の忘れものを、今年は取りに行きます！」 昨年、準優勝 キューアンドエーグループ様 ドッジボールチーム

キューアンドエーグループ様はグループとして大きくなり「キューアンドエーグループ元年」ともいえる2014年、グループ内の壁をぶち壊せ！ということでグループを挙げてご参加いただきました。昨年、テレビのドキュメンタリー番組でも特集され、見事準優勝を飾ったドッジボールチームの皆様にお話を伺ってきました。

—2014年大会に参加されていたかがでしたか。

<佐々木さん>

2014年はキューアンドエーのグループ会社に入社して1ヶ月のタイミングで参加しました。入社して間もなくでしたのでグループの事が理解できていませんでしたが、コーポレートゲームズに参加してグループ内での繋がりができ、会社のことを良く知るきっかけになりました。今年も自分が参加することで、皆の交流を深めていく役割を担えればいいと思います。



<釣巻さん>

2014年にグループが大きくなり、ヘッドクォーターへ出向したばかりの時に、コーポレートゲームズに参加しました。経理・財務を担当していますので、本社・子会社とも関わりを持てたことが非常に良かったです。個人的にはドキュメンタリー番組に特集されたことで、全社的に顔と名前が知られて、社内外問わず色々な人とコミュニケーションをとるきっかけになりました(笑)

<吉沢さん>

2014昨年はキャプテンでした。会社の中での関係が良くなったのは当然ですが、私個人としては、ドッジボールでアツイ気持ちになれたことが良かった。仕事以外で勝ちにこだわるのがないので、会社のメンバーとアツイ気持ちを共有できたことが素晴らしいかったです。

—昨年大会での思い出はありますか。

<吉沢さん>

印象的なエピソードが2つあります。1つ目は決勝戦で対戦したチームとのエピソード。決勝戦で対戦したチームとは、大会の前に一緒にドッジボールの練習をしていました。我々のチームが先に決勝進出を決めた際、その相手チームのメンバーに「決勝で待ってるから勝ち上がって来いよ！」と声をかけました。するとそのチームが決勝に勝ち上がってきましたが、決勝戦は我々が負けてしまいました。試合後、そのチームの方から「吉沢さんに『勝ち上がって来い』といわれたおかげで優勝できました」と言われ、悔しさと嬉しさの混じった、不思議な気持ちになりました(笑)もう1つは、小学生チームとの試合です。どうしても勝ちたいという気持ちが優り、小学生のチーム相手に大人げなく勝利してしまいました・・・(笑)試合後、その父兄の皆様にはチーム全員でお詫びに行った際に、父兄の皆様から「逆に勝ってくれて、世間の厳しさを教えてくれてありがとうございます！この悔しい気持ちを子どもたちには覚えておいてもらいたいです」という温かいお言葉を頂きました。社内だけでなく、スポーツを通じて知り合った社外の人との交流もコーポレートゲームズの魅力だと思います。2015年は、昨年の忘れものを取りに行きたい。



キューアンドエーグループ様 会社プロフィール

キューアンドエーグループは、ICTデジタル製品関連のテクニカルサポート事業pool5game1\_16や、コールセンター、マーケティング、HRソリューション、ハードウェア修理、多言語サービスなどに強みを持つグループ会社との広範な事業連携により「モノからコト」への変化がますます加速している時代の中で、お客さまに末永く利用していただける独自のサービスモデル構築に取り組んでまいります。

ウェブサイト：<http://group.qac.jp/>



## 「2014年大会で感じた楽しさを皆に広げ、競技もセレブレーションパーティーも楽しみたい！」 エーオンホールディングス ジャパン様

2016年はリレーマラソン、フットサル、綱引きなど5チーム43名でご参加いただくエーオンホールディングス ジャパン様。「2014年参加した楽しさを社内でもっと広めて行きたい」と、参加規模を大きくして2015年の大会に挑みます！エーオンホールディングス ジャパン株式会社 広報・総務部の臼井良太様にお話をお伺いしてきました。

—2014年大会にご参加いただいた感想を教えてください。

2014年は大会開催を知ったタイミングが申込締切の直前ということもあり、社内で告知があまりできませんでしたが、フットサル、テニス、バトミントンなどに10名程度で参加しました。参加したメンバーに話を聞いてみると、ほぼ全てのメンバーが「楽しかった」「もっと多くの人数で参加したい」と、高揚した様子で話してくれました。また、時間もなかったということで、ユニフォームも間に合わせになってしまったので、皆でもっとカッコイイユニフォームを着て参加したいと思っていました(笑)

—2015年の大会は、どのくらいの規模でご参加予定でしょうか。

早いタイミングから日本にあるグループ会社5社に参加の呼びかけを行いました。ユニフォームも新調し、皆やる気満々です！今年は5社からフットサル、テニス、ゴルフ、リレーマラソン、綱引きに50名弱で参加します。私も綱引きに参加予定です。綱引きなんて小学生以来でしょうか。とても楽しみにしています(笑)

2015年に参加するチームの中には、グループ会社からそれぞれ選抜した連合チームも結成しています。グループ会社としては、200名弱が同じフロアで仕事をしていますが「顔はわかる」程度の関係になりがちです。そんな中、グループ会社の枠を越えて、スポーツやセレブレーションパーティーを通じて、知らない者同士がチームとして一体感を持って交流できることが、コーポレートゲームズの魅力ですね。

—今年の目標と意気込みを教えてください。

個人的には、競合他社と対戦してみたいですね。メンバー全員が燃えると思います(笑)どうせ参加するのであれば1試合でも多くやりたいですから、勝ちにこだわりたいと思います。会社としては、まずグループの垣根を越えた交流が深まり、大会前後を含めて、グループ全体が盛り上がり、参加することで「エーオン」という会社を知ってもらえるきっかけになればさらに良いですね。2015は事前の段階から参加者を集めた懇親会など、昨年より素晴らしい大会になる様に、スタートしていきます。



参加団体  
訪問インタビュー  
「エーオンホールディングス  
ジャパン」



### エーオンホールディングス ジャパン様 プロフィール

エーオンは、リスクマネジメント、保険および再保険仲介業、および人事・人材ソリューションの分野における世界最大のサービスプロバイダーです。120以上の国や地域で69,000名を超える社員が、『リスク』と『人材』に関する革新的で効果的なソリューションや、業界最高レベルの専門知識をお客さまに対して提供しています。日本においても、グループ企業各社がお客さまのニーズに応じた最適なソリューション、コンサルティングを提供し、急激に変化する経済環境の中で企業が存続し、繁栄を続けるためのお手伝いをさせて頂いています。

ウェブサイト：<http://www.aon.com/japan/>



## 「国内外の楽天グループの力を集めて勝ちにいきます！」 楽天株式会社様

国内外の楽天グループの中から総勢350人以上、国にして11の国と地域グローバルチーム37チームでご参加される楽天株式会社様にお伺いしてきました。

ーどの競技にどういったチームでのご参加を予定していますか

<駒米さん>

国内外のグループ会社・支社に声をかけまして、計26社、359人での参加予定となりました。全部で37チームありまして、ソフトボール以外の全競技への参加を予定しています。海外の社員も約50名ほど、参加することになりました。アメリカやフランスの社員が多いですが、最も遠いところからでは、地球の反対側のブラジルから参加する社員もいます。

<大野さん>

テニスやフットサル、野球など社内の同好会メンバーで構成されているチームもちろんありますが、それ以外のチームは国内外のグループからの有志が集まったチームです。せっかくのこの機会に海外の社員とも交流してもらいたいので、同好会を除き、基本的には部をまたいで、日本人社員+外国籍社員といった多国籍なチーム編成にしています。

ーコーポレートゲームズへの参加を通して期待していることを教えてください

<駒米さん>

社内・グループ内におけるコミュニケーションの活性化を期待しています。9月末に移転が概ね完了したばかりの新社屋の「楽天クリムゾンハウス」にも社風が体現されていますが、「オープンなコミュニケーション」が当社の特徴でもあります。会議室もすべてガラス張りですし、社長室にも社員の執務スペースとの仕切りがないくらいです。こうした楽天カルチャーをより活性化させたい。特に、海外支社の社員が来日して、国内の社員と交流をし、日本の楽天カルチャーを吸収して持ち帰ってほしいと思っています。

<大野さん>

実際にコーポレートゲームズの参加が決まってから、チームキャプテンを中心に自主的にランチ会や練習しているチームもあると聞きます。また、海外の社員とはテレビ会議などでよく会話することはあるが、実際に会うという機会はなかなかないので、それが新鮮で楽しみという話も社内ですぐに耳にします。今回の参加をきっかけに社内コミュニケーションが確実に活発になっていると感じます。非常に楽しみにしています。

参加団体  
訪問インタビュー  
「楽天株式会社」(初参加)



楽天株式会社様 プロフィール

「人々と社会をエンパワーメントする世界一のインターネット・サービス企業を目指して」楽天グループは、ユーザーおよび取引先企業への満足度の高いサービスの提供により、多くの人々に成長の機会をもたらす、社会を変革し、豊かにしていくことに寄与していきます。

ウェブサイト： <http://corp.rakuten.co.jp/>

## 「ウォーミングアップミーティング」取材レポート！ | 株式会社オートバックスセブン様

株式会社オートバックスセブン様が大会に向けたウォーミングパーティー（決起集会）を実施すると聞き、その模様を取材に行ってきました！  
本大会に12チーム、119名で参加していただくオートバックスセブン様。  
大会まで10日となった11/4に、本番に向けて参加チームの皆様で決意を新たにする会「ウォーミングパーティー」が実施されました。



オートバックスセブンさんは、今回は部署をまたいだプロジェクトとして、会社としても新しいカタチで取り組んでいただいているそうです！大会自体のアワードとは別に、社内でも頑張ったチームには賞を設けているそうですよ！



株式会社オートバックスセブン様 プロフィール

「常にお客様に最適なカーライフを提案し、豊かで健全な車社会を創造する」

オートバックスセブンは2015年9月末現在で国内591店舗・海外30店舗のネットワークでカー用品の販売・取付に加え、車検整備や車の買取・販売など、カーライフをサポートするフランチャイズ本部です。

ウェブサイト：<http://www.autobacs.co.jp/>